

主催：公益財団法人大学コンソーシアム京都

2019年度 第17回SDフォーラム

# 2040年 大学のカタチ、 職員のカタチ

10/19 (土) 2019  
受付 9:30 ~ 10:00 ~

会場 キャンパスプラザ京都  
定員 236名  
対象 大学教職員、高等教育関係者

申込期間

加盟大学・短期大学の方	8/27(火) 9時 ~ 9/20(金)
上記以外の方	9/6(金) 9時 ~ 9/20(金)

※申込先着順

※8/27(火)9時 ~ 9/5(木)の期間は、加盟大学・短期大学の方のみお申込みいただけます。

参加費

加盟大学・短期大学の方	1,000円 / 情報交換会 2,000円
上記以外の方	6,000円 / 情報交換会 2,000円

## 10:00~12:00 基調講演

「未知の問題を発見し、未知の解決法を自ら創造する力を涵養する人と組織を目指して」

講師：佐藤 法仁 氏 岡山大学 副理事(経営力強化担当)・URA/内閣府上席科学技術政策フェロー

## 13:20~16:20 分科会 1: AI時代の大学のカタチ

2: RPAとAIを利用した業務構造改革のカタチ  
~早稲田大学の実践をもとに~

3: 国際化のカタチ

4: 教職協働のカタチ

5: イノベーションと大学経営のカタチ

6: 新規事業創造のカタチ

## 16:45~17:45 情報交換会

お申込み・詳細はこちらから

<http://www.consortium.or.jp/project/sd/forum>

日本の高等教育を取り巻く環境は、主たる進学者となる18歳人口がさらに減少する中、経済社会のグローバル化の加速、AIやIoT分野の急速な進展を伴う産業構造の変化など、かつて経験したことのないスピードで変化し続けています。このような環境変化に対応しながら、持続可能な社会の維持と発展に寄与することのできる人材育成が極めて重要であり、高等教育機関にはその役割を果たすことが一層求められています。

中央教育審議会は、2017年3月文部科学大臣から「我が国の高等教育に関する将来構想について」の諮問を受け、2018年11月に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が出され、2040年から逆算的な考えのもと、速やかに対応しなければならないものと議論を深め改革へとむすびつけていくもの、そして社会の様々な変化にも柔軟に対応できる高等教育を目指し、「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿」など大きく6項目にまとめられており、今後具体的な施策の検討が進められています。

今回のSDフォーラムでは、このような国の動向を踏まえるとともに、概ね2040年の大学のおかれた環境をイメージしながら、その時代の抱えている様々な問題や課題を共に考え、議論いただきたいと思います。

10:00~12:00		定員236名	
第	1	部	基調講演

## 未知の問題を発見し、未知の解決法を自ら創造する力を 涵養する人と組織を目指して

講師：佐藤 法仁 氏

岡山大学 副理事（経営力強化担当）・URA／内閣府上席科学技術政策フェロー

課題を解決し、生活環境を改善することは今を生きる私たちには重要なことですが、次世代を見据え、現在と未来を同一線上とし、より良い未来を創造しようとする時、これまでの方程式では対応できないことが多いです。今回、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」にも記載されている国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」や政府の「Society5.0」などに焦点を当て、現在を俯瞰しつつ未来の大学のカタチ、職員のカタチに繋がる人と組織の点について、皆様と共に考えてみたいと思います。

### <キーワード>

SDGs、Society5.0、オープンイノベーション、コレクティブ・インパクト、人材の活用と流動化、VUCA、大学改革

### <講師経歴>

大学院修了後、企業等でビジネス・マネジメントの経験を積むと共に、大学や国立研究所等において研究者として感染制御研究に携わる。2012年に岡山大学着任。2017年に同大学企画・評価・総務担当副理事に就任。2019年からは経営力強化担当副理事も拝命し、既存と新規事業の経営マネジメントに従事。その他、内閣府上席科学技術政策フェローや企業支援、社会投資など、産学官それぞれの領域における諸活動、制度改革等に同時並行で携わっている。歯学博士。

13:20~16:20		※分科会はいずれか1つにご参加いただけます。 ※加盟校先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。	
第	2	部	分科会

分科会 1	A I 時代の大学のカタチ	定員80名 (優先定員45名)
-------	---------------	--------------------

報告者：船戸 高樹 氏 山梨学院大学 学習教育開発センター顧問

スピルバーグってすごいな、と思う。90年代の初めにリリースした映画「A・I」。主人公のデビット君は人型ロボットだが、感情を持っている。子供ができた両親に捨てられてしまいが、2000年後に髪の毛のDNAから再生した母親に再会する。近年のAIの進展を見るとこの映画が現実味を帯びてくる。そのような時代になると、大学はどのような“カタチ”になっているのだろう。社会の進展は、すべて夢のような話からスタートしている。夢を語るう・ポツとしていたら子コちゃんに叱られてしまうから。

分科会 <b>2</b>	<b>RPAとAIを活用した業務構造改革のカタチ</b> ～早稲田大学の実践をもとに～	定員80名 (優先定員45名)
--------------	--	--------------------

報告者 : **伊藤 達哉 氏** 早稲田大学 情報企画部・事務部長

早稲田大学では、2018年4月の新研究支援・財務システムの稼働を契機として、RPA(Robotic Process Automation)を活用した業務構造改革を推進しています。また、AI(Artificial Intelligence)やOCR(Optical Character Recognition)を試行し、業務への実装を目指して開発を続けています。この分科会では、早稲田大学の実践事例から「2040年に向けた人材マネジメントのカタチ」を考えます。

分科会 <b>3</b>	<b>国際化のカタチ</b>	定員20名 (優先定員12名)
--------------	----------------	--------------------

報告者 : **米澤 彰純 氏** 国立大学法人東北大学  
国際戦略室 副室長・教授 博士(教育学) 総長特別補佐(国際戦略担当)

新興国の台頭が著しい反面、ナショナリズムが強調され、知識や人の移動を制限する動きも現れるなど、グローバル化の流れが大きく転換しつつあります。ランキングへの関心の高まりもまた、世界の大学の国に影響を与えています。大学の国際化とは、自分たちの視野や活動の範囲を広げ、世界共通の社会課題に対して協力して貢献する道を探ることとされています。これを具体的にどうカタチにするか、一緒に考えてみましょう。

分科会 <b>4</b>	<b>教職協働のカタチ</b>	定員24名 (優先定員14名)
--------------	-----------------	--------------------

報告者 : **山本 啓一 氏** 北陸大学 経済経営学部 教授・学部長  
**江口 美保 氏** 北陸大学 教務課 課長

地方創生や高大社接続、汎用的技能の高度化、21世紀型市民教育等の社会的要請に応えるために、高等教育の再定義が求められています。「大学教員と職員の協働」についても、ステイクホルダーの増加等をふまえると、さらに広い観点から捉え直す必要がありそうです。未来の大学像をふまえ、今後の「教職協働のカタチ」を参加者とともに考える予定です。

分科会 <b>5</b>	<b>イノベーションと大学経営のカタチ</b>	定員24名 (優先定員10名)
--------------	-------------------------	--------------------

報告者 : **飯吉 透 氏** 京都大学 理事補/高等教育研究開発推進センター長・教授

近年、世界や我が国において、高等教育を取り巻く状況や社会が大学に求める役割が急激に変わりつつあります。インターネット、AI、VR等によるイノベーションが、私たちの「生活のカタチ」に大きな影響を与えていることを踏まえ、高等教育の将来像や各大学における今後の改革・改善の取組の目的や方向性、「教職員の働くカタチ」や「学生の学ぶカタチ」などについて、皆さんと共に多様な観点から創発的に考えたいと思います。

分科会 <b>6</b>	<b>新規事業創造のカタチ</b>	定員16名 (優先定員10名)
--------------	-------------------	--------------------

報告者 : **佐藤 法仁 氏** 岡山大学 副理事(経営力強化担当)・URA/  
内閣府上席科学技術政策フェロー

皆さんにとって「新規事業」は少し縁遠いかもしれません。しかし、課題を見つけ、その解決法を導き出し、新たな価値を提供するという新規事業の視点は、既存の仕事と同じものです。違う点は、“既存の領域”を超えることで、それにより組織と自らの視点と思考を膨らませ、多くの知見を得ることのできる貴重な点にあります。今回、他業界のビジネスモデル等を紹介しつつ、新規事業組み立ての一手法などを体験します。この体験を通じて違う物の見方やクリエイティビティに富む業務を生み出すことなどに寄与することを目的とします。

<b>16:45~17:45</b>	参加費 2,000円	定員 80名				
第 <b>3</b> 部		情 報 交 換 会				

キャンパスプラザ京都内のホールにて、立食形式の情報交換会を開催いたします。

# 2019年度 第17回SDフォーラム 申込方法

申込期間 加盟大学・短期大学の方 8月27日(火) 9時 ~ 9月20日(金)

上記以外の方 9月6日(金) 9時 ~ 9月20日(金)

## STEP 1 お申込み（先着順）

申込み手続き完了後は、参加分科会の変更ができませんのでご注意ください。

① 下記URLもしくはQRコードから、お申込み画面へ進み、メールアドレスを入力・送信してください。

<http://www.consortium.or.jp/project/sd/forum>



② 「参加申込みフォーム」のURLをお送りしますので、メールに記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込手続きを行ってください。申込手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。

※「参加申込みフォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性がございます。  
その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

## STEP 2 参加費のお支払

参加費支払い期限: 2019年9月28日(土)

参加費払込票は9月上旬頃に随時発送いたします。

申込み手続きが完了後、払込票をお送りいたします。

期日までに、最寄りのコンビニエンスストアで参加費をお支払いください。

※払込票の取り扱い可能店は払込票の裏面に記載されています。銀行などの金融機関ではお支払いできませんのでご注意ください。

※お支払いいただく参加費については、印刷費、Webシステム運営費、通信費等、諸準備に使用いたします。いかなる理由があっても返金等には応じられませんので、予めご了承ください。

## STEP 3 参加証（メール）の受領

参加費の払込みが確認できましたら、参加証（メール）で送信します。

※10月11日(金)までに参加証（メール）が届かない場合は、SDフォーラム事務局までお問い合わせください。

※参加証の内容をもとに参加者ネームカードを作成いたします。修正がある場合はSDフォーラム事務局へご連絡ください。

## STEP 4 フォーラム当日

プリントアウトした参加証（メール）を、受付にご提示ください。

※代理の方が参加される場合には事務局にご連絡ください。

※フォーラム当日の分科会参加申込および参加分科会の変更はいたしかねます。

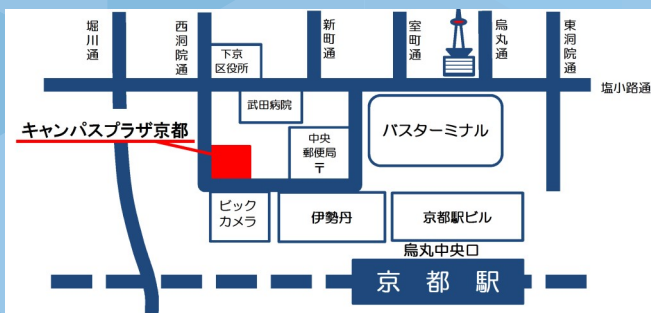
【報告集について】 2020年3月下旬発行予定です。

参加費をお支払いいただき、お申込みの際に報告集を希望された方へ、ご登録の住所宛に送付いたします。

※報告集の販売は行っていません。

### 会場へのアクセス

京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR各線「京都駅」下車。徒歩5分。



### お問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
教育開発事業部 SDフォーラム事務局

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る  
キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9163 FAX: (075) 353-9101

E-mail: [sd@consortium.or.jp](mailto:sd@consortium.or.jp)

窓口受付時間: 9:00~17:00(火-土)